

海水魚と淡水魚

多くの魚は、海水か淡水のどちらかで生活しています。

なぜなのでしょう？

ウナギやサケなど一部の魚を除くと、多くの魚は海と川・湖のいずれかでしか生活できません。これは海水と淡水の塩分濃度がまったく異なるためです。

海にすんでいる魚の場合、海水は魚の体液よりも塩分濃度が高いため、体の外に水がどんどん出ていきます。すると、ナメクジに塩をかけたように、干からびてしまいます。そのため、海の魚は海水をどんどん飲み、水だけを吸収して、塩分はエラなどからどんどん捨てていきます。

川などの淡水にすんでいる魚の場合、淡水は魚の体液より塩分濃度が低いため、海とは逆で体の中に水がどんどん入ってきます。そのため、淡水魚はほとんど水を飲まず、尿として水をどんどん捨てていきます。

多くの魚はこのどちらかの機能しか持っていないので、海水か淡水のどちらかでしか生活できません。しかし、ウナギやサケなど一部の魚は、この両方の機能を持っているため、ある時期は川で生活し、別の時期は海で生活することができます。

